

特集

ギョギョ、錦鯉ってすギョい! さかなクンが錦鯉の故郷を訪ねる



2017年5月5日に「県の鑑賞魚」に指定された錦鯉。実は今、世界では錦鯉ブームが。その魅力に、新潟おさかな大使のさかなクンが迫ります。



「当社は10品種を育てています」と間野太さん。「美しい〜と見入るさかなクン(大日養鯉場)」



1 「輸出ではダントツの人気の丹頂です」。この後、さかなクンは特別にこの錦鯉の抱き上げに挑戦。2 「初めて知ることばかり!! 朝日小学生新聞の記事に書かせていただいてもいいでギョございますか?」と熱心に取材する姿も。3 日に何度も水槽を回って見ているから、肌荒れや充血などのわずかな異常もすぐに分かるという生産者の水嶋隆裕さん。

意外と知らない「錦鯉」の秘密!

1 世界約40カ国へ輸出

今、世界では空前の錦鯉ブーム。新潟県からも世界約40カ国へ輸出され、その輸出総額は1年で約18億円。ヨーロッパ、アメリカに加え、最近ではアジアでの人気も上昇中です。色彩の華やかさ、姿の美しさ、そして、穏やかな性質から広く愛されているのです。



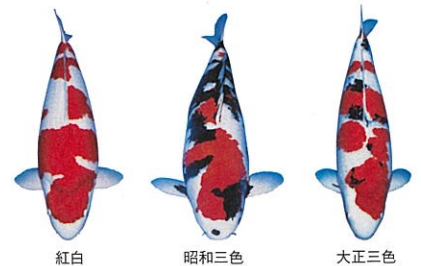
2 新潟には「一番」が3つ

全日本錦鯉振興会理事の間野太さんは、二代続く錦鯉生産者でもあります。「小千谷市、長岡市、魚沼市は、錦鯉発祥の地。一番歴史が古く、生産者数と、生産数は日本一多い。この3つの一番は、私たちの誇りです」。新潟県では300軒以上の養鯉業者が、それぞれに得意とする品種を作るので、「ここに来れば多くの品種が一度に見られる」と外国人バイヤーに評判なのだそうです。



3 約100種類の華やかさ

江戸時代に突然変異で誕生した、最初の錦鯉の模様は紅白と言われています。そこから探究心と粘り強さ、雪国の文化や環境で、約100種類にまで多様化。「今も改良や新品种の開発は続いています。楽しみにしててください」と間野さん。



紅白 昭和三色 大正三色

写真提供: 新日本教育図書